

関東ブロック首長意見交換会

—地域プラットフォーム形成支援事業—

平成30年10月30日
和光市長
松本武洋



I のびゆく和光



和光市の概要

- 人口：8万2,468人
世帯数：4万809世帯（平成30年6月1日現在）
- 面積：11.04 km²
- 市民の平均年齢：40.2歳（平成27年3月31日現在）
- 高齢化率：16.9%（平成27年3月31日現在）
- 平成30年度一般会計予算：256億6,600万円



和光市イメージキャラクター
わこうっち・さつきちゃん



高い交通利便性





続く人口流入



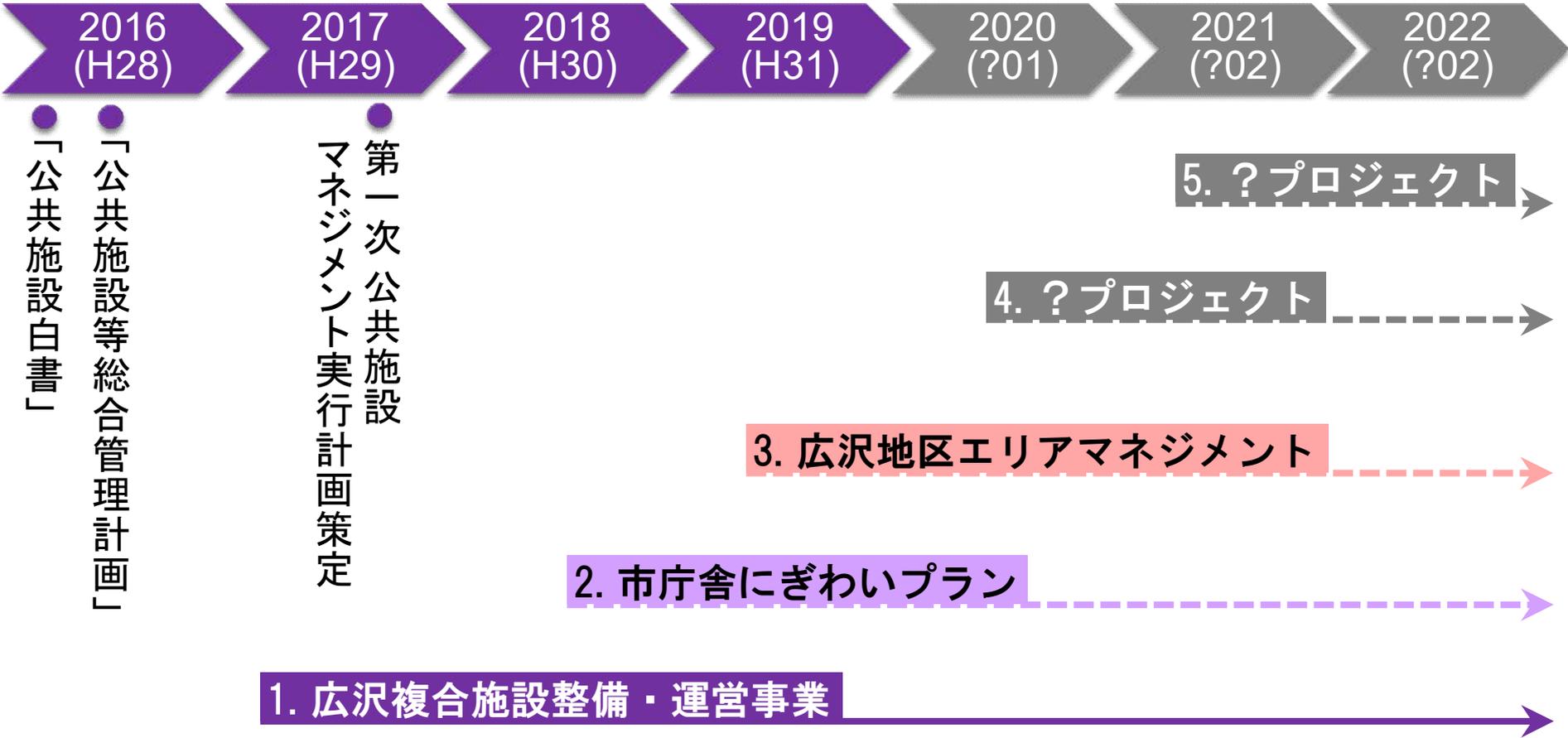
資料:総務省統計局「国勢調査(平成22年)」より作成



Ⅱ 和光市の“資産戦略”



公共施設マネジメントに関する取組



2016
(H28)

2017
(H29)

2018
(H30)

2019
(H31)

2020
(?01)

2021
(?02)

2022
(?02)

● 「公共施設白書」
● 「公共施設等総合管理計画」

● 第一次公共施設
マネジメント実行計画策定

5. ?プロジェクト

4. ?プロジェクト

3. 広沢地区エリアマネジメント

2. 市庁舎にぎわいプラン

1. 広沢複合施設整備・運営事業



Ⅲ 広沢複合施設 P F I 事業



広沢複合施設整備・運営事業





事業方式

定期借地

民間収益施設

BTO方式

総合児童センター

市民プール

BT方式

保健センター

敷地造成・
建物配置・
開発手続

認定こども園

児童発達支援
センター



BT方式

保育クラブ

小学校プール等解体

動線整備



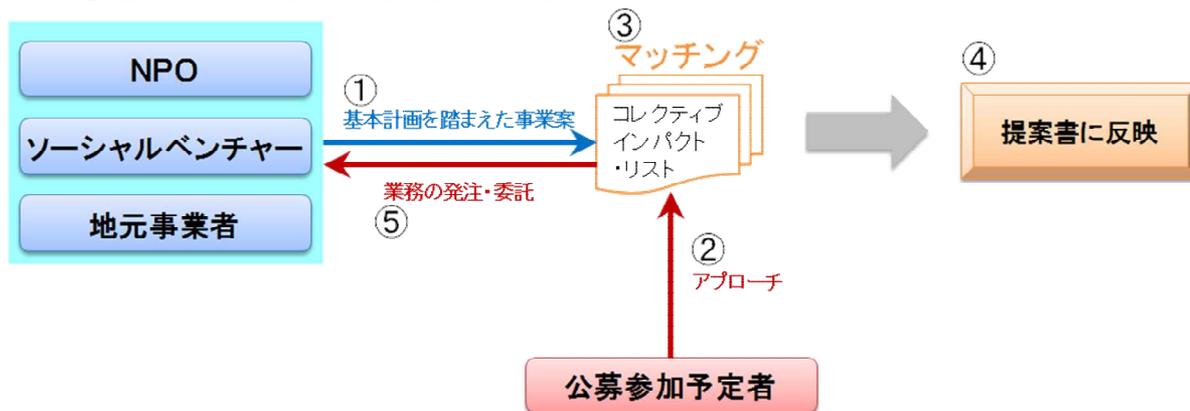
コレクティブインパクト

- 『市民・行政・民間事業者 みんなでつくる 交流拠点』を基本理念に掲げ、実現に向けては“コレクティブインパクト”の考え方に則り、目標の達成あるいは課題の解決を図る。
- “コレクティブインパクト”とは、市民・行政・民間事業者・NPO等が、共通のゴールに向かって適切な役割分担や連携を、異なる立場を超えて、社会の課題解決を図ること。
- 「適切な役割分担や連携」を進めるには、各集合体の違いを認めて活かし、“足並みをそろえること”や“行動を同じくすること”ではなく、目的・目標を共有したうえで、結果を出すことと捉えている。



コレクティブインパクト・リスト

- 市民が消費者という側面だけでなく、価値の提供者となれるような環境づくりを行う。
- 公募参加予定の大手事業者は、志のあるNPO、ソーシャルベンチャー、地元事業者と共に取組み、提案をまとめる。
- PFI事業の提案審査では、コレクティブインパクトの活用策、及びリスト掲載者との連携内容を記載することを求める。
- 結果として市内事業者が大多数に。

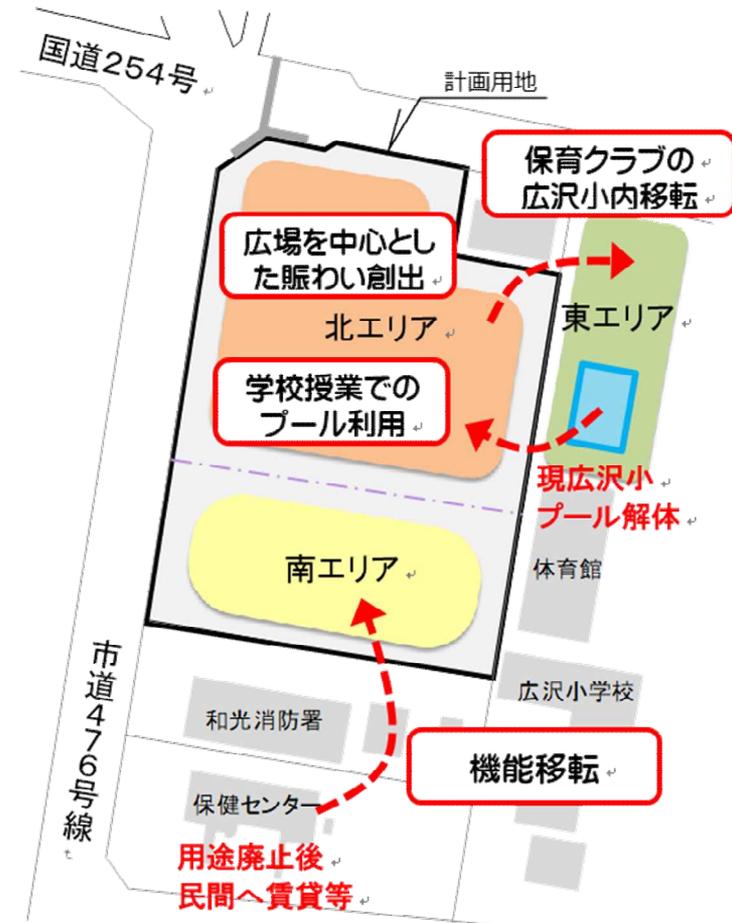




統廃合と収益化

【隣接小中学校プール統廃合】

- 老朽化が著しい、隣接する小学校と中学校の屋外プールを廃止
- 学校専用の更衣室やスムーズな動線を整備
- 指導は教員が責任をもって行うが、安全監視は市民プール監視員も支援する。
- 可動床を採用
「奪い合えば不足する。譲り合えば、より質の高いものが得られる」





統廃合と収益化

【現保健センター跡地活用】

- 特徴的な赤レンガ風の建物に愛着ある声も。
- 耐震性能は満たしているがバリアフリーではない。
- 事務スペースや倉庫として使用するのではなく、収益化とにぎわいづくりの牽引役として、民間活用への方向で検討中。



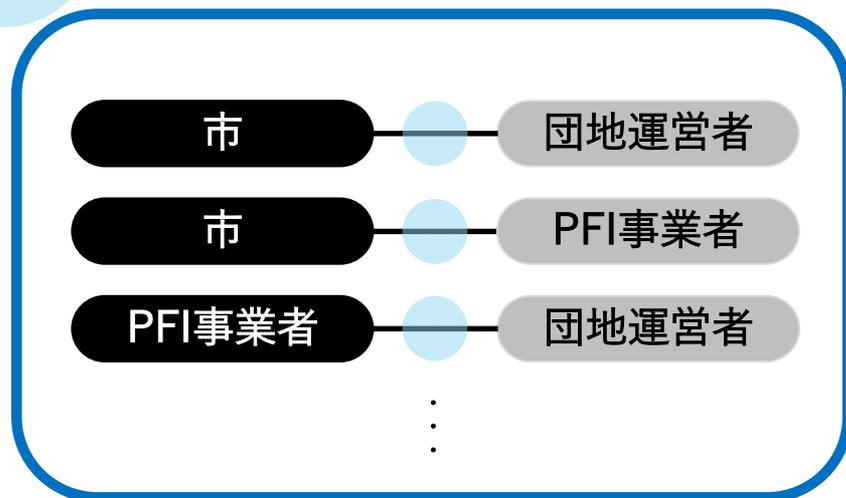
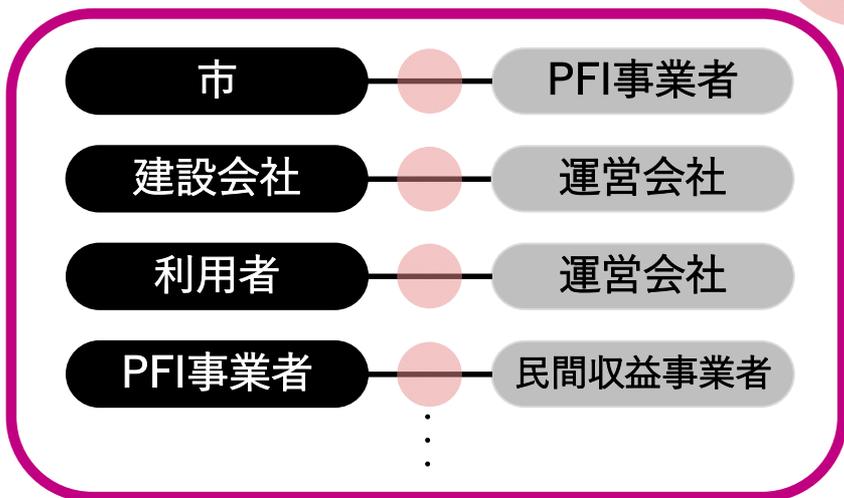


民間マネジメント業務

- 背景の異なる集合体間の対話を促進し、それぞれの違いを認めあい、相互に信頼関係を醸成させる役割を担う「民間マネジメント業務」をPFIの要求水準に記載。
- 広沢複合施設整備・運営事業と、広沢地区エリアマネジメントの両面にわたって役割を果たす。

広沢複合施設整備・運営事業に関わる役割

広沢地区エリアマネジメントに関わる役割



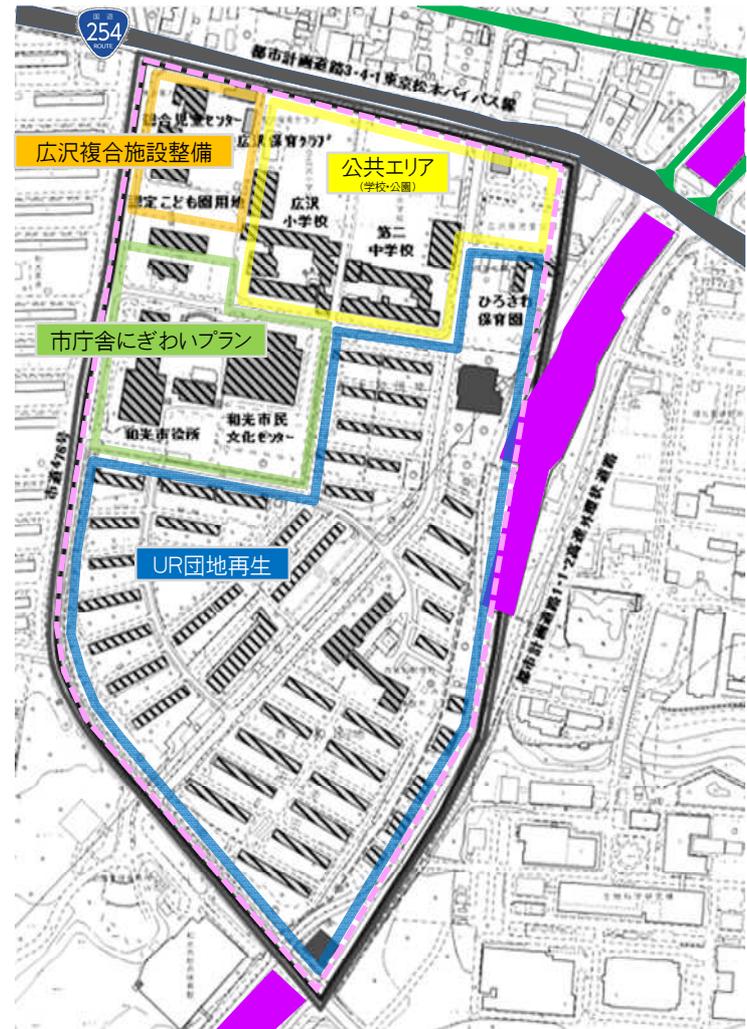
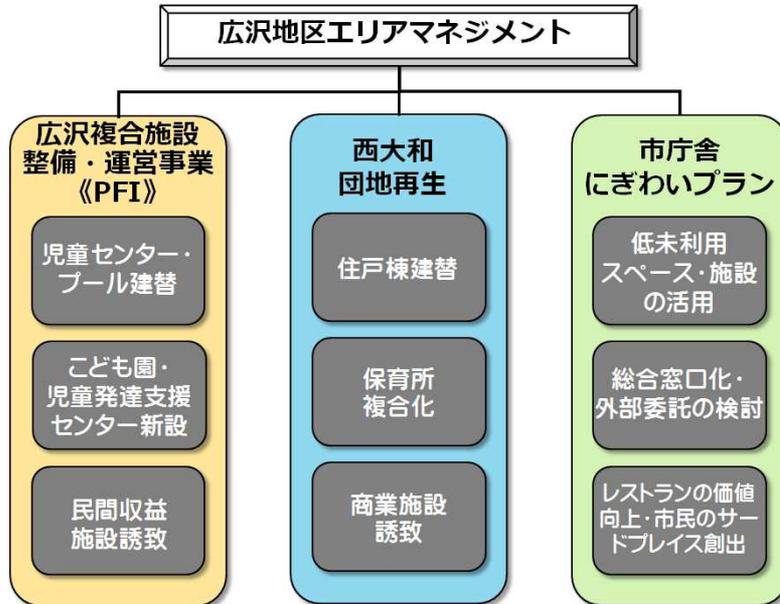


IV 市庁舎にぎわいプラン



エリアマネジメント

- 広沢地区ににぎわいを創出することを目的としてエリアマネジメントを実施。
- エリアマネジメントの一環として、市庁舎の有効活用を目指し「市庁舎にぎわいプラン」を実行。





ご清聴ありがとうございました。

